

7月27日(火曜日)

ドル/円

## 米株上昇するもドル買いにはつながらず

### 26日(月)の主な推移

ダウ平均株価

10525.43ドル  
(+100.81ドル)

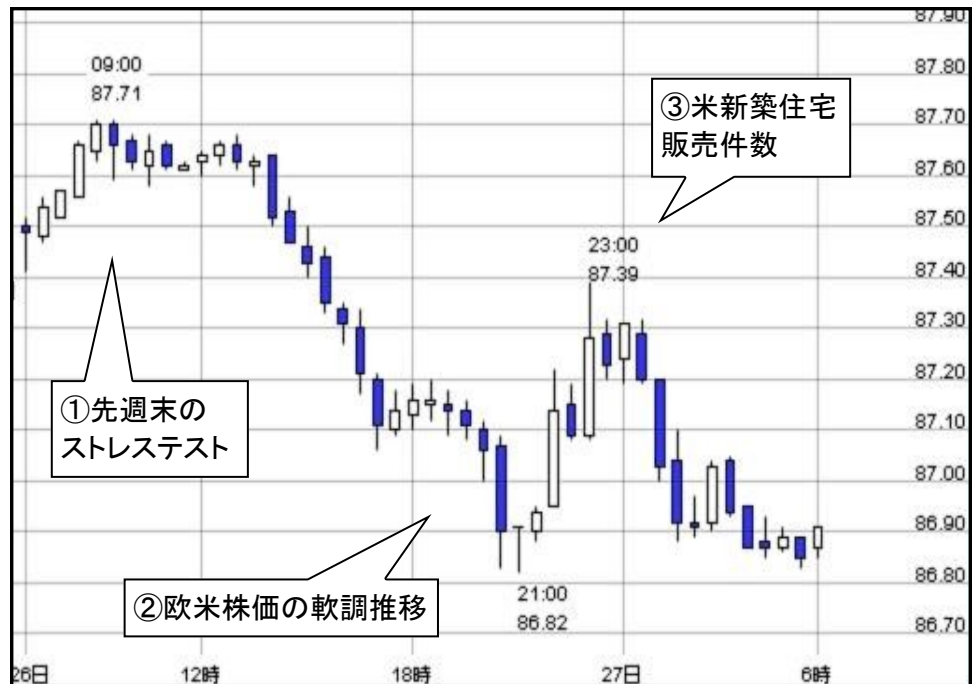
米長期金利  
(10年債利回り)

2.9960%  
(-0.0038%)

NY原油先物

78.98ドル  
(±0.00ドル)

チャート: 30分足 26日(月)朝7時 ~ 27日(火)朝6時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所:外為どっとコム

- |   |  |
|---|--|
| ① | 前週末に発表された欧州のストレステストが無難な結果となったことを受け、先週末の米株上昇による本邦の株高を見越したドル買いにより、ドル/円は87.71円まで上昇した。だがその後は上海株式市場が軟調に推移したことにより、日経平均株価が上げ幅を縮小すると、ドル/円も押し戻される場面が見られた。                 |
| ② | 時間外のNYダウ平均先物や欧州株式市場が軟調に推移したことにより、ドル/円は87円にあったと見られるストップロスをつけたことで下げ足を早め、21時過ぎには86.82円まで下落した。   |
| ③ | 米6月新築住宅販売件数は33.0万件と市場予想(31.1万件)を上回ったことが市場では好感され、ドル/円は発表直後に87.39円まで上昇した。しかしその後はNYダウ平均株価の上昇により、市場ではリスクを積極的に取る動きへとつながると、ユーロや豪ドルに対して米ドルが売られたことにより、ドル/円は安値圏でのみ合いが続いた。 |

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 86.40- 87.40円

本日は米国にて、7月消費者信頼感指数の発表が予定されている。今月16日に発表された米7月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値が予想外の大幅低下となったことでドル売りへとつながったことから、今回の弱めな市場予想を下回る場合、市場はドル売りで反応することが予想される。一方で先週後半に発表された米6月中古住宅販売件数など、「予想ほどには」悪化しなかったことを手掛かりにドルが買われていることから、市場予想を上回ればドル/円が上昇となる可能性もないとは言えない。

ただし昨晩は米株の上昇が市場でのリスクを積極的に取る動きにより、ドルを売ってユーロや豪ドルなどを買う動きへとつながったことから、ドル/円の上昇は限定的となることも考えられる。連邦準備制度理事会(FRB)から利上げや金融引き締めを示唆する発言が出ない間は、この傾向が続く可能性がある。(川畑)

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
7/27(火)	22:00	○	(米) 5月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	+3.81%	+3.85%
	23:00		(米) 7月リッチモンド連銀製造業指数	23	12
	23:00	○	(米) 7月消費者信頼感指数	52.9	51.0
	26:00	○	(米) 2年債入札 (380億ドル)	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com